

平成29年第2回江別市総合教育会議

1 日時 平成29年10月31日（火）午前10時00分～午前11時10分

2 場所 市長公室

3 出席者

（構成員） 江別市長 三好 昇
江別市教育委員会
教育長 月田 健二
委員 支部 英孝
委員 橋本 幸子
委員 林 大輔
委員 須田 壽美江

（事務局） 教育部長 渡部 丈司
教育部次長 萬 直樹
教育部学校教育支援室長 伊藤 忠信
教育部総務課長 山崎 正樹
教育部学校教育支援室学校教育課長 廣田 修
教育部学校教育支援室教育支援課長 松井 正行
教育部総務課総務係長 嶋中 健一
教育部総務課総務係主任 佐野 まり子

4 議題

- （1）全国学力・学習状況調査の結果の概要について
- （2）平成30年度教育施策及び予算に関する意見交換について

会 議 録

三好市長	<p>定刻になりましたので、ただいまから、平成29年第2回江別市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>本日の議題は、お手元の次第に記載のとおり、全国学力・学習状況調査の結果の概要についてと平成30年度教育施策及び予算に関する意見交換についてでございます。</p> <p>それでは、次第に基づきまして、2の協議事項（1）全国学力・学習状況調査の結果の概要についてを議題といたします。</p> <p>事務局から報告願います。</p>
伊藤学校教育支援室長	<p>平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の概要について、ご説明いたします。全国学力・学習状況調査は、文部科学省が、「全国学力・学習状況調査に関する実施要領」に基づき、小学6年生と中学3年生を対象に、児童生徒に対する教科に関する調査および質問紙調査、並びに学校に対する質問紙調査を実施しているもので、今年度は、4月に調査を実施し、8月下旬に、北海道教育委員会から、調査結果の送付がありました。</p> <p>資料をご覧ください。</p> <p>小学校及び中学校の平均正答率について、教科ごとに今回の平均正答率と、括弧内に前年度の平均正答率を、全国、全道、江別市、全国と江別市の差、全道と江別市の差の順に表記しておりますので、ご参照ください。</p> <p>今年度の傾向としましては、全国との比較では、小学校は国語Aと算数Aの2教科で全国平均を上回り、国語Bと算数Bの2教科で全国平均に届かなかった。中学校は、全ての教科で全国平均を上回った。全道との比較では、小学校は国語A、国語B及び算数Aの3教科で全道平均を上回り、算数Bで同等だった。中学校は全ての教科で、全道平均を上回った。という結果となっております。</p> <p>また、資料には記載しておりませんが、昨年度との比較では、中学校において、昨年度は全ての教科で全国平均を下回っておりましたが、今年度は全ての教科で全国平均を上回っております。</p> <p>現在、教育委員会では、質問紙調査も含めた詳細の分析を行っており、11月頃に、分析資料を公表する予定であります。</p> <p>また、北海道教育委員会では、11月頃をめぐり、北海道全体及び管内ごとの調査結果の分析と、公表に同意した市町村の分析資料の公表を予定しております。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま事務局から報告を受けましたが、教育長から来年度に向けた取り組みについて、ご見解をお聞かせいただきたいと思っております。</p>
月田教育長	<p>今年も10月16日に道教委主催の北海道学力向上推進協議会が開催され、私も都市教育長会を代表して出席しました。都市教育長会から5名、町村教育長会から10名の教育長、北海道小学校校長会、中学校校長会の代表、PTA連合会の代表2名が集まり、本道の学力向上策について話し合いが行われました。</p> <p>まず、道教委からの説明の中で、北海道全体の学力が全国平均に迫りつつあるものの、家庭における学習時間が全国より相当少ないこと等が話されました。</p> <p>そして、小学校、中学校代表の校長からは、全国学力テストについての説明会に保護者が集まらないが、入試に関わるものは敏感であるとの話がありました。</p> <p>各教育長からの発言では、我がまちでも同じである。ただ、子供たちのやる気をいかに引き出すかというようなテーマでは人が集まってくる。テーマを変えて保護者を集め、意識改革をすることが大切ではないか。子供たち自身が自分なりに努力すること、努力すると、分からなかったところが分かるようになり、学力が向上したと実感できることが大事ではないかという意見が多く出されました。</p> <p>このような体験が、大人になったときに、非常に役立つのではないかと議論されました。そのようなことを押さえながら、教育行政や各学校としては、子供たちの教育環境づくりにしっかり対応すべきという意見が多く出されました。</p>

江別市としても教育環境づくりに多くの取り組みを行っています。

アウトメディアプロジェクト、いわゆるスマホなどを活用する時間を少なくするための取り組みや、早寝、早起き、朝ご飯運動に代表される子どもの生活習慣づくりを進める取り組み、子どもの読書習慣環境整備事業、学校ボランティアにつながる学校支援地域本部事業、地域と一体的に子供を育てるコミュニティ・スクール事業などを行っています。

さらに、江別市の各小中学校では、学力向上につながる授業改善を推し進めてもらいたいと思っています。

第1は、認知と非認知の同時活動、同時目標達成です。認知とは、知識を得ることであり、非認知とは意欲化、耐性などの人間力を指しています。

本州の生徒指導困難校が、この考えをもって授業を進めた結果、生徒指導上の問題が減っていき、学力が向上した事例がたくさんあります。そのため、次の四つを定義として考えることができます。

一つ目は、子供たちの互恵的な協力関係が成立していること。二つ目は、学習集団の目標と学習活動における個人の責任が明確であること。三つ目は、生産的相互交流が促進されていること。四つ目は、共同の体験的理解が促進されていることです。

このような考え方を学校に求めているところですが、全国学力・学習状況調査の学校質問紙において、「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」が、小学校6年生が77.8%で、全国平均より38.5ポイント高く、中学3年生は100%で、全国平均より47.0ポイント高くなっており、いかに児童生徒が落ち着いているかを表しているかが分かります。

これらの結果は、昨年度と同様に驚異的な数字であり、各学校の努力のおかげであると思っています。特に中学校は、平成26年度から平成29年度まで4年連続で100%であり、小学校から中学校への責任ある送り込みと各中学校の努力に感謝しているところです。

さらに、教育部の施策として、補足的な学習の実施、ICT教育の充実、英語教育の強化、小中学校学習サポート事業、大学との連携、えべつ式土曜授業、教職員研修などを実施し学力向上につなげています。それらが、小中学校の今回の好結果となって表れたと考えます。

江別市も道の学力向上推進会議で述べられているように、子供たちのやる気をいかに引き出すかというテーマで保護者を集め、家庭学習時間を増やしていきたいと思っています。

以上です。

三好市長

教育長から全道における状況、市の現状に関する分析、来年度に向けた取り組みについてのご見解を述べていただきましたが、これについて、委員の皆様から何かございませんか。(なし)

本日は、結果の概要についての報告を受けましたので、詳細につきましては、今後開催されます定例教育委員会で、改めて科目別の結果や、それに基づく分析・対策などに関する報告があるかと思しますので、その際にご議論いただけたらと思います。

以上で、本件を終了いたします。

次に、(2)平成30年度教育政策及び予算に関する意見交換についてを議題といたします。

市では、去る10月10日に、新年度の予算編成方針説明会を開催し、新年度に向けて、計画未着手事業の確認や、既存事業の見直し・検証などを進めるよう指示したところです。

新年度予算を組む上での基本的な考え方として、人口減対策として雇用対策や待機児童対策など社会減に対する対策が必要であることや、平成26年度から進めております第6次江別市総合計画の5年目になることから、えべつ未来戦略の最終年に入る前の方向性の確認をしなければならないことから、新年度予算がいかに重要なものとなるかということ、職員に指示したところでございます。

私から新年度予算編成にあたっての職員への指示事項を申し上げたところであり、先日の定例教育委員会でご説明したとお聞きしております。

また、例年、江別市教育委員会予算の研修協議会から新年度予算に関しての要望を受けているとのことですので、事務局からその概要について、ご説明をいただきたいと思いま

<p>山崎総務課長</p>	<p>す。</p> <p>資料3の平成30年度予算要望重点事項についてご説明させていただきます。</p> <p>こちらは、過日江別市教育委員会予算の研修協議会の委員長から提出された平成30年度教育予算要望書の中から重点事項を抜粋したものでございます。</p> <p>一つ目は、継続でございますが、冬期間の通学路の車道及び歩道の完全除雪及び排雪についての要望でございます。</p> <p>二つ目も継続でございますが、保護者の教育費負担を軽減するため、小中学校理科消耗品の予算化についての要望でございます。</p> <p>三つ目は、特別支援教育充実のための人員の増員及び教材、教具の充実を要望するものでございます。こちら継続項目となっております。</p> <p>四つ目は、ICT教育のさらなる充実のため、デジタル教科書、電子黒板等の効果的な活用を進める環境整備についての要望で、一部新規となりますが、全体としては継続となります。</p> <p>なお、ICT教育関連の機器等は平成28年、平成29年で段階的に整備しているところであります。</p> <p>五つ目でございますが、学校・地域・家庭との連携を積極的に進めるため、江別市PTA連合会事業への助成を要望するものでございます。こちら継続です。</p> <p>最後の六つ目は、就学援助の補助項目に部活動費の追加を要望するものでございます。こちら継続事項です。</p> <p>なお、平成29年度からPTA会費、生徒会費を支給項目に追加したところであります。この6項目が重点事項として協議会から提出されたものでございます。</p> <p>以上です。</p>
<p>三好市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今ほど、私から新年度に向けた予算編成の基本方針等を申し上げたほか、事務局からも学校関係団体から要望されている予算の概要についての説明をいただきました。この中から、まず特別支援教育充実のため、人員の増員及び教材、教具の充実を要望しますという事項がありますので、その関連につきまして意見交換をさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。(了)</p> <p>それではお手元に資料があるようですので、担当課長から説明をお願いします。</p>
<p>松井教育支援課長</p>	<p>特別支援教育の充実についてご説明いたします。</p> <p>お手元に配付しております、資料をご覧ください。</p> <p>1の特別支援教育補助員、特別支援学級生活介助員の配置状況ですが、(1)特別支援教育補助員とは、通常学級において特別な支援を要するLD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)、高機能自閉症などの児童生徒に対する支援を行う非常勤職員であり、学習支援や生活支援の補助などを教員と協力して行っています。小中学校の通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒数は年々増加しており、それに伴い、特別支援教育補助員数も年々増加しています。</p> <p>次に(2)特別支援学級生活介助員とは、特別支援学級において障がいのある児童生徒に対する支援を行う非常勤職員であり、食事、排せつ、教室の移動等、学校における日常生活の介助や学習活動支援を教員と協力して行っています。小中学校の特別支援学級において障がいのある児童生徒数についても増加傾向にあり、特別支援学級生活介助員も増加傾向にあります。なお、参考として、平成29年度の小中学校の特別支援学級の児童生徒数204人の障がい区分別内訳を記載しています。</p> <p>次に、2のバリアフリー等主な施設整備の状況ですが、平成27年度から3年間の施設整備状況を記載しています。平成29年度については、上江別小学校と江別第二中学校の特別支援学級にシャワーを設置しています。</p> <p>次に、3の今後の方向性についてですが、障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導を実現するためには、補助員や生活介助員の補助が必要であり、補助員等を必要としている学校に適切に配置し、対応していきたいと思っております。</p>

三好市長	<p>ただいま、事務局から説明がありました。皆様の見解、感想または意見等をお聞かせいただければと思いますけれど、いかがでしょうか。</p>
橋本教育委員	<p>まず、人手が足りていないことが心配です。特別支援学級に通っていらっしゃるお子さんは204人で、ここに関わっている教員が95人、さらに生活介助員が31人、1人の方が2人の子供を見ているということで、それで足りているとはとても思えません。</p> <p>そちらも心配なのですが、それより今後のこととして心配なのは、普通学級に在籍している特別な支援を必要とする児童生徒は、年度ごとに信じられない数で増えていますし、自分も幼児教育に関わる現場にいますが、周りの先生方からもよく話に出るのが、年々こういうお子さんが増えている感じがするというようなのです。</p> <p>今後、ますます増えていくことが予想されますが、普通学級にいるということは、特別支援教育補助員という非常勤職員の方31人が、クラスの中に入っている506人を見ているということなので、とても手が回っていない状況だと思われます。小中学校でお聞きした話では、結局は養護の先生や担任外の先生、教頭先生や校長先生が1人に1人ずつ付かなければならないお子さんに付いているということで、本来の業務が滞るといった話も聞いています。人手が何人いけば足りるのかということ、ケースバイケースで分からないのですが、506人に31人では厳しいのではないかと思いますので、このところが、今後、充実していけばと思っています。</p>
三好市長	<p>これは、児童生徒数は年々減っていますが、逆に障がいを持って支援が必要な子供たちは増えていますよね。今までと今後のことで考えた場合、そういう障がいを持っている子供たちの発見率が高くなったということでしょうか。</p>
伊藤学校教育支援室長	<p>特別支援教育の制度が平成19年度から変わって以降、発達障がいに関する部分も特別支援教育に該当するということになり、そういう枠に当てはまるお子さんが増えてきました。</p> <p>また、この制度も10年経っていますので、それに対する親御さんとか教職員の理解も進んできましたので、以前と比べて発見しやすい環境になってきていると考えています。</p>
三好市長	<p>普通学級に子供を入れたいという考えだった親御さんも、そういうところに教育を求めてくるようになってきたということですね。</p>
伊藤学校教育支援室長	<p>普通学級に在籍している子供の親御さんの中には、理解しているけれど特別支援学級に入れたいと思う親御さんもいれば、まだそうではないとなかなか理解いただけない親御さんもいます。これについては、先生方から見て該当するであろうと思われる学校現場としての意見ですので、学校としては増えているということです。</p>
三好市長	<p>分かりました。基本的には全ての子供たちに対応できれば一番理想的ですよ。</p>
須田教育委員	<p>私も小学校の低学年の教室に入ったことがあるのですが、一人でも教室の雰囲気や声などが乱れると、支援に入った先生が、その子に掛かり切りになって、他に支援が必要な子に手が回らないという状況になるのです。それで、親御さんに特別支援学級を勧めても同意が得られないということで、苦労したことがありました。各学級に6%くらい特別支援に該当する子供がいるというニュースを聞きましたけれど、本当にこの調子でどんどん増えていくと、補助員がまだまだ必要ではないかと思えます。小学校の1、2年生の場合は、まだしっかり授業できる状態ではないところにそういう子が入ると、全体がばらばらになってしまうので、現場としては、補助員がもう少し欲しいという状況でした。</p>
三好市長	<p>その辺の考え方は教育委員会どうですか。</p>
渡部教育部長	<p>基本的には、その子に応じた教育が必要だと考えております。就学前にいろいろな相談を受けるなど、環境的に普通学級がいいのか、特別支援学級がいいのか保護者と相談していきながら、入る学級については決めるようにしています。ただ、補助の必要な子全てに</p>

	<p>補助員を付けることは制度上難しいと思いますので、やはりその子の発達の度合いに応じたグループ分けをしながら、個別的に生活介助員は必要な部分を手厚く、ある程度複数的人数に対応できる子供についてはそれなりの人数を配置するように考えております。小中学校の特別支援学級や高等養護学校もございますが、昔の小学校・中学校でそういう学級に入るとそのあと高校から行き場所がない、施設がないといった、いろいろな不便がございましたが、現時点ではそれなりの就労支援とか社会の受け入れ態勢も少しずつ進んでおります。</p> <p>江別市も高等養護学校の誘致を進めておりますが、そういった環境ができてくれば、保護者の選択もまた変わってくるのではないかと考えています。いずれにしても、どの学級に所属するかについてはインクルーシブ教育という考え方がありますので、保護者と相談しながら進めてまいりたいと考えております。</p>
三好市長	<p>法的な基準みたいなものはありますか。</p>
伊藤学校教育支援室長	<p>特別支援学級は、基本的に8人までが1クラスになります。情緒の子が1人いても1クラス、先生が1人。2人いても1クラスなので、先生が1人。ただ、小学校の場合は7人になった場合は1クラスで先生1人なのですが、加配でもう1人付いて、7、8人になると先生が2人対応というのが国の基準です。</p> <p>介助員や補助員については特に基準はありません。</p>
三好市長	<p>教育委員会は先生のOBの方がたくさんいらっしゃるの、その方々を活用し配置していただいているのでしょうか。</p>
伊藤学校教育支援室長	<p>退職校長の先生方は、いろいろな指導の部分に入っただけでございまして、教育委員会の教育支援課に配置になっております。各学校を回っていただいて、先生方の相談を受けたり、子供の状況を見て、補助員ですとか介助員の配置の見立てををしたりしていただくのが退職校長の役割となっております。補助員とか介助員は別枠で公募して採用しています。</p>
三好市長	<p>人数が増えていますので、それに対する対応も必要なのですがその子の問題もありますが、周りの子供たちにも影響してきますので、きめ細かく対応していかなければなりません。限られた予算でありますので、工夫しながら皆さんからの意見をいただきながら進めていきたいと思います。</p> <p>教育長の方からご意見があればお願いします。</p>
月田教育長	<p>全国の都市教育長会議に出席したときに、この補助員・介助員に関する問題についてどのくらい充実させたら良いかと話題になりました。京都のような観光地で財政が豊かなところはそのような人たちを相当数配置しているのですが、普通の市ではなかなか補助員等が配置できないということで、大変格差があるというのが全国状況です。</p> <p>それでも江別市は、管内的にはかなりの人数が配置されていると思うのですが、それにもまして特別な支援が必要な子供たちの増え方が大きく、今後も増え続けるということで、学校での対応が難しくなるのではないかと思います。</p>
三好市長	<p>いずれにしても、事実としては増えているということで、それなりの対応をしていかなければなりません。先ほども申し上げたとおり、予算関連の人件費等の問題がありますので、可能な限りで、対応していかななくてはならないと思います。今後の課題とさせていただきます。</p> <p>それでは次に、ICT教育のさらなる充実を目指す上で、デジタル教科書、電子黒板を平成28年、29年で段階的に整備中ですが、この事業に関して皆様のお考えをお聞かせいただきたいと思っております。いかがでしょうか。(了)</p>
支部教育委員	<p>江別市では、おかげ様でICT関係の環境が整ってまいりました。全部の学校でICTが導入されまして、先進的に無線LAN配置の学校も江別第一小学校、江別太小学校、江</p>

	<p>別第一中学校の3校で、新しい校舎に新しい設備が配置されてきたところです。学校開放日などに行きまして、一番気になったのが、スクリーンの画面が時間帯とか季節によって見づらいつか、私もそういう場面に出会ったこともあります。昔は黒板なども光量制限というか、光が何ルクス以上なければならぬという調査がされていた時代もあったようですけれども、電子黒板も光量をアップすると、パソコンの画面の光の強さが脳に良い影響を与えないなどというデータも多少出てきています。この見づらさを解決してあげられるような方策を取る必要があると思います。実際に運用し始めてみて気付く部分を感じています。</p> <p>それと、体育の授業などで活用しているスクリーンが小さいのではと思います。体育の先生にお聞きしますと、前転をするときに手の付き方の位置とか画面を停止したり、動かしたり、上手な回り方というのは手をこういうふうについて、足でこやって蹴るんだよという正しい動作を確認をするときなど、子供たちがスクリーンに集まって見るのですが、画面が小さいのかなと現場で見ていて感じました。動作の確認というのは、体力調査の形でも影響が最終的には出てくるのかなと思うのです。50メートル走のスタートの構えを細かく教えるとか、垂直ジャンプをするときの事前の形というか細かな動作を教えるときに、画面を使って確認しようとするから見づらいつ部分があるのではと感じました。</p> <p>また、無線LANの部分では始まったばかりですけれども、私も自宅でパソコンを使いますが無線LANの誤動作が時々出てきます。隣同士の教室で無線LANを同時に使ったときはどうなのかという検証は、実態の部分では現場の方から情報が上がってれば、対応していく必要があるのかと思います。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>私の配慮ミスがございまして、あらかじめ現状を聞いた上で、ご意見を伺った方が良かったと思いますので、ここで事務局からの説明を聞いていただき、その後、感じたことを伺いたいと思います。それでは説明をお願いします。</p>
廣田学校教育課長	<p>それでは、ICT環境の整備状況についてご説明いたします。お手元に配付しております資料をご覧ください。1のICT環境整備の取組状況ですが、年度別に整備状況を表した表です。平成21年度に小中学校全校にデジタルテレビを整備しました。また、小中学校の教員が使用する校務用パソコンの一部を整備しました。校務用のパソコンは平成23年度と平成25年度において残りの部分を整備し、全ての校務用のパソコンの整備を完了しました。平成22年度から平成25年度の4か年にわたって、小中学校のパソコン教室にある教育用パソコンの更新を行いました。平成25年度及び平成26年度の2か年では、小中学校の全教室に電子黒板を整備しました。</p> <p>平成27年度には、中学校3校のパソコン教室にある教育用パソコンの更新を行いました。その際にデスクトップ型パソコンをタブレット型パソコンに変更しております。平成28年度には新しく開校した江別第一小学校を地域のモデル校としてタブレットパソコンの整備と指導用デジタル教科書、算数・国語の全学年分の整備を行いました。</p> <p>その他、平成21年度に導入した小中学校の教員が使用する校務用パソコンの更新と指導用デジタル教科書を小学校は算数2学年分、中学校は数学2学年分の整備を行いました。</p> <p>今年度、平成29年度は中学校5校のパソコン教室にある教育用パソコンの更新を行い、これにより全中学校にタブレットパソコンの整備が完了します。また、指導用デジタル教科書を小学校では算数4学年分、国語2学年分、中学校では数学1学年分、国語1学年分の整備を行いました。指導用デジタル教科書につきましては、今年度予算で小中学校の算数、数学の全学年分の整備が行われたこととなります。</p> <p>次に、2のICT導入効果についてですが、(1)電子黒板では教科書の拡大、動画の提示等により、興味・関心を惹く授業を行うことで、児童生徒の集中力、知識・理解、思考力を高めることができます。(2)指導用デジタル教科書では、視覚からの情報が加わることで、児童生徒の理解が深められ、学習内容の確実な定着につながっており電子黒板、指導用デジタル教科書ともに学校現場において活用させていただいています。</p> <p>以上です。</p>

三好市長	事務局から説明がありましたが、先ほど支部委員からお話がありました校内LANで誤作動があるなどの支障は報告されていますか。
廣田学校教育課長	校内LANにつきましては、誤作動についての報告はありません。
三好市長	同時に使用したとしても問題はありますか。
廣田学校教育課長	今、江別第一小学校にタブレットパソコンが40台導入されています。1クラス分だけになりますので、複数のクラスで同時に使うことはなく、まだそのような状況は発生していません。
三好市長	分かりました。体育館でスクリーンが小さくて見づらいとのご意見でしたが、その辺はいかがですか。
廣田学校教育課長	体育の授業でそういう使い方をしている学校もあると思うのですが、基本的には各教室の授業の中で使われるようなものと考えています。導入にあたりまして、学校等に意見を聞いていますが、教室に配置する物ですから限られたスペースの中での適度な大きさのものを選定して導入しています。
三好市長	拡大することはできないのですか。
廣田学校教育課長	基本的にはホワイトボードの場合と、黒板にスクリーンで映す場合と、ある程度サイズが決まっています。
三好市長	よく市民会館等で、後ろの大きな壁に映すことがありますが、そのようなことはできないのですか。
廣田学校教育課長	プロジェクターを使ってスクリーンに映すことは可能ですが、各クラスに配置しているものではできません。
三好市長	分かりました。今の説明で何か付け加えてご意見はありませんか。
支部教育委員	今タブレットパソコンは1クラス分だけなのですが、将来的には増えていく方向に進むだろうと考えていますが、不具合な部分は更新のタイミングでよく検証していただければ解決していくのではないかと思います。
林教育委員	<p>支部委員のご発言と一部重複しますが、本市で電子黒板を導入して、次の段階で電子黒板自体は良い物だということが十分分かってきましたが、より効率のいい使い方をするとする部分も必要になってくるだろうと思います。</p> <p>先生方も使われるときにこういう使い方があったのかというような部分がまだあるようなので、より良い使い方の情報交換とか、先生方同士での情報交換を教育委員会も含めてできるようにすればより良い使い方ができると思います。これは、江別市のみならず他の管内から異動してくる方もいらっしゃるの継続的に話ししていく必要があると思います。</p> <p>それと、先ほどWi-Fiの話も出ていましたが第一小学校と第一中学校も整備されたということで、第一小学校は移動Wi-Fiを持っていて、それを使うときに持ってくる。支障が出るというのは、例えば1組と2組で使う場合に1組に持って来たときに2組に余り電波が飛ばないというケースがあるということだと思います。そういうことが、たまに機械なのであるようです。</p> <p>移動Wi-Fiを増やすというのが解決方法なのでしょうけれども、結構な金額が掛かるようなので段階的な整備が必要かなと思います。中学校へ行きますと移動Wi-Fiを持って来て通じないというケースが多いですね。建物の構造的なものもあるようです。結局どうしているかということ、パソコン教室でしか使えないというようなことがあるもの</p>

	<p>ですから、そうするとタブレットを導入した意味合いが薄れるので、Wi-Fiの整備環境ということが、これから江別市として検討していかなければならない課題かなと思っています。タブレットの使い方として先生方からお伺いすると、子どもたちのノートを撮影して、それをそのまま画面に映すというのがすぐできるのですよね。そうすると、同じことを教えたときに、この子はこういうまとめ方をしているということが、子供たちの気付きになる新しい使い方ができるということで、非常に学習効果が上がると言われています。</p> <p>細かいところですが、体育館などの移動でも使いたいということで、クラスにホワイトボード式のものが有りますけれども、それとは別にもう少し大型の移動式のものがある学校に1台、2台有ると、体育館だったり音楽室だったり、そういう所でも使えるようになるので、大きさの問題も含めて解決できる方法になるのではないかなと思います。</p> <p>光の問題は、遮光カーテンみたいなものを取り入れていく必要があるのかなと思います。あとは、ソフトの充実でしょうか。算数と国語は整備されてきましたけど、理科・社会というのは高学年のみだったりするものですから、これもお金が掛かることなものですけれども段階的に進めていただければと思います。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>ただいまのお二人の意見に対して、教育委員会としてどうでしょうか。</p> <p>デジタル教科書の更新や教員の異動に伴って、スキルアップも課題だと思うのですが。</p>
渡部教育部長	<p>デジタル教科書の関係については、江別市は早い段階から整備していただきまして、徐々に指導の中で定着しているかと思っています。今回の学力テストの関係もそうですし、基本的な学力の養成に非常に浸透してきたと思います。</p> <p>遮光カーテンについては、天気の良い日はかなり教室内に光が入りまして、見づらくなっているものですから、その辺については、今後、ホワイトボードを使う場所の位置の関係とか、行く行くは機器の更新があるかもしれませんが、少しずつ改善していきたいと思っておりますし、全クラスに導入していただいたものですから、その活用について教員の研修等を進めてきたところです。</p> <p>理科・社会のデジタル教材については、学校現場からも要望が来ておりますので、予算の範囲内なるべく充実を進めてまいりたいと思っています。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>各教室にカーテンは必須条件なのでしょうか。学校建築をしたり整備をしたりするときに、各クラスにカーテンを付けるというのは条件にはないのでしょうか。</p>
山崎総務課長	<p>条件かどうか分かりませんが、各学校・各教室においてカーテンはあります。ただ、遮光カーテンではないので、光を完全に遮ることはできていません。ですから、それであれば全体を遮光カーテンにするのが良いのか、例えば、映しだされる部分だけを上手く光を遮るのが良いのか手法の問題もありますので、検討させていただきたいと思っています。</p>
三好市長	<p>職員研修の方はどうですか。</p>
伊藤学校教育支援室長	<p>まず、5月に他市町村から異動されてきた方を対象に電子黒板の基本的な使い方の講習会を行っています。それから夏休み中の夏期セミナー、冬期セミナーでは先進的に使っている教員が模擬授業を行う中で、こういった使い方があるというような研修会を開いています。</p>
三好市長	<p>確か大麻に有名な先生がいて、いろいろと教えて歩いていると聞いたことがあります。</p>
伊藤学校教育支援室長	<p>大麻泉小学校と東野幌小学校にいる先生がデジタル教材を上手に使える方がいらっしゃいます。</p>
三好市長	<p>その先生方が研修会で講師になって市内の先生方を指導したり、学校に行き指導した</p>

伊藤学校教育支援室長	<p>りすることはないのですか。</p> <p>全体を集めてということもありますし、学校単位で研修する場合は、講師として呼んで、指導してもらった事例はあります。</p>
三好市長	<p>いずれにしましても、少しずつ成果も出てきているということで、大変重要なことだと思います。</p> <p>教育長、何かございますか。</p>
月田教育長	<p>今後の教育の在り方からすると、ICT環境の整備というのをやっていかなければならないし、更新していく必要があるということで、予算が掛かるとは思いますがよろしくお願ひしたいと思っています。</p>
三好市長	<p>成果が出てきているので、何とかしなければなりませんね。</p> <p>別件ですが、今回、NHKの合唱コンクールで江別太小学校の児童が全道でナンバー1になって北海道代表になりましたよね。表敬訪問していただいたときに、先生から音楽室に設置した階段式のひな壇があるおかげで、どの子がどのような音を出しているのかがよく分かるようになったと言っていました。新たに整備した結果のことでうれしく思いましたが、逆に、他の学校はどうしたものかと思っています。限られた予算ですので、また、協議させていただきたいと思っています。予算につきましては、教育現場の意見を聞きまして、この総合教育会議などを活用しながら、ニーズに応えていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。</p> <p>これで予定されていた議題について以上ですが、今後、教育委員会の中で精査していただいて、どういう項目を進めていくかお聞かせいただき、私の方も予算編成の議論の中で決めさせていただきたいと思っていますのでよろしくお願ひいたします。</p> <p>一応これで議題を終了いたしますが、その他で私の方から。</p> <p>最近の報道も含めて、いじめ問題について文部科学省から件数が発表されました。大変な件数で、中でも京都が28,000件ほどです。道内は3,600件ほどしか出ていませんが、全国で急激に急増しているということです。本市の状況がどうなのか関心を持っていて、いじめ問題について現状はどうなっているのかお話いただければと思います。</p> <p>資料があるようですので、担当課長から説明をお願いします。</p>
松井教育支援課長	<p>いじめ防止対策についてご説明いたします。お手元に配付しております資料をご覧ください。</p> <p>まず1の沿革ですが、平成25年9月28日にいじめ防止対策推進法が施行されたことに伴い、同年10月に文部科学省で「いじめの防止等のための基本的な方針」が策定され、江別市では、平成26年10月に「江別市いじめ防止基本方針」が策定されました。</p> <p>本年、3月14日には文部科学省で「いじめの防止等のための基本的な方針」が改定されたことから、現在、「江別市いじめ防止基本方針」の改定作業を進めており、来年の2月に完成する予定となっています。</p> <p>次に、2の市の施策内容ですが「いじめ根絶子ども会議」「ネットパトロール」やいじめ理解教育等での未然防止、各種相談体制の整備、アンケート調査、心のダイレクトメール等による早期発見のほか江別市青少年健全育成協議会等により、いじめ問題対策の関係機関との連携等に取り組んでいます。</p> <p>次に、3の江別市いじめ防止基本方針の改定内容ですが、文部科学省の改定内容を踏まえた改定作業を進めており、いじめの具体的な形態及び学校として特に配慮が必要な児童生徒についての対応の明記、いじめの問題に関する校内研修の取組促進、学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施状況の学校評価への位置付け、学校いじめ防止プログラム及び早期発見、事案対処マニュアルの策定、いじめの情報共有の徹底及びいじめにかかる情報を教職員が学校いじめ対策組織に報告する義務等について追加する予定です。</p> <p>4のいじめ・不登校の相談件数の推移ですが、平成25年度以降ほぼ横ばいの傾向となっています。</p>

<p>三好市長</p>	<p>5のいじめ対策の方向性につきましては、いじめの未然防止、いじめの早期発見、学校全体での組織的対応を中心に取り組んでいきたいと考えています。 以上です。</p> <p>教育委員会のほうも関心を持って進めていただきたいと思います。常に課題があれば吸い上げる仕組みづくりが必要だと思えます。子供によって濃淡があると思うので、その子供にとっての問題点を引き上げるような取り組みを各学校ごとにつくってもらえるように教育委員会の方からも指導していってほしいと思います。 何かご意見がございますか。</p>
<p>月田教育長</p>	<p>いじめの問題で一番心配しているのは、スマホの中のいじめです。昔ですと、教室の中であからさまに話をしないと、悪口を言うとか、そういういじめだったのですが、今ではスマホの中であの人が嫌いだとかLINEの中であって、本人は全く分からないという恐怖があるのではないかと思います。 やはり、スマホのいじめをなくすというのは教員であっても分からないので、子供たち自身が気づいてもらうということで、中学生サミットでの検討など、子供たちの中からなくそうという対策をしています。</p>
<p>三好市長</p>	<p>それは、次のいじめ防止対策の中でも議論対象になりますか。</p>
<p>松井教育支援課長</p>	<p>はい。</p>
<p>三好市長</p>	<p>そのほかに、何かご意見はありますか。(なし) ありがとうございました。</p> <p>それでは、次回の日程ですが、緊急で協議を要する事案がない限り、新年度の開催を考えておりますので、事務局を通じてご連絡をさせていただきたいと思えます。ご多忙のことと存じますが、よろしく願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、本日の江別市総合教育会議を閉会いたします。熱心なご議論をいただきましたことを、心より感謝いたします。</p>